

# あけましておめでとう

輝かしい2000年のお正月を会員の皆様にはお健やかで明るい希望のうちにお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年も相変わらず厳しい経済状態が続き、ご商売の方・お勤めの方・あるいはそれ以外の方々もご苦労が多かったことと思います。

各地で国際紛争や民族紛争が頻発し、また天災などで甚大な被害が発生いたしました。

国内的にも凶悪事件や宗教がらみの被害が多発したり、我々が一番信頼していた警察を舞台とする悪事が発覚したりと、一年を振り返るといろいろなことがありました。

今年は辰年、縁起を担ぐわけではありませんが、竜は中国の竜神信仰が日本にもたらされ、祥瑞のしるしとされており、竜は自由に天上を飛翔し人間のあらゆる物事をも見とおし、天子がよく国を治めれば風雨を順調にし魚産を豊かに恵むと信じられてきました。天にも登る勢いを持っていることにあやかって、今年こそはすべてが上向きに順調に好転することを期待したいものだと願っております。

なにごとも悪い方に考えれば事態は良くなりません。一所懸命に努力すればきっと竜神様が良い方に導いてくださります。がんばりましょう！。





## シルクロード・丝绸之路

星期四班 落合一正

「張騫鑿空」この成語はその昔東洋史で習い今だに記憶にしっかり残っている。北辺から漢をおびやかしていた匈奴挾撃の目的で武帝は張騫を大月氏に派遣した。張騫は途中で匈奴に捕えられその目的は達せられなかったが、やがて逃げ帰り、これを機会に西域の事情がわかり、中央アジア方面との交渉が活発になった。「鑿空」とは「切り開いて新しい道路を作ることだ」と教わった。多分彼の業績にちなんでこの成語が出来たのだろう。大月氏、烏孫、康居、龜茲、大宛、樓蘭などという国名を聞く度に少年の胸は古代中国への夢をかきたてられてきた。

これら諸国家の栄枯盛衰は絶え間なく、或るものは名をかえ、或るものは史上から消え去った。その後幾世紀を経、19世紀から20世紀にかけこの地は西欧を始めとし、ロシア、日本などの学者、探検家の活躍する舞台となった。1980年代に入り、中国の改革開放が進むと外国人もここに入れるようになった。イギリスの考古学者で探検家のスタインが1914年この地に入って以来実に70年ぶり、1984年にNHKがここで取材を始め“シルクロード・丝绸之路”のTV放送を始めると一躍世間の関心を集め、注目をひくようになった。シルクロードといえはこの二人を忘れるわけにはいかない。一人は“シルクロード”の名付け親であるドイツの地理学者、リヒトホーフエン、もう一人は彼の弟子で生涯の大半をこの地の調査探検に捧げ、樓蘭の発見者でもあるスウェーデンの地理学者、探検家のスウェンヘディンである。中国へ行った時たまたま武漢の本屋で買った“丝路文物被盗记”の‘走雅丹斯文赫定入楼兰’の章に次のような一節がありましたので紹介しておきます。丝绸之路命名の経緯が述べられています。

一九〇二年夏季、斯文赫定“探察”回国、他偷走大量文物资料、用了整整三年时间、写出一部五卷本的西域考古巨著、就用他的老师李希霍芬对这条古代欧亚大干线命名《Seidenstraße, 丝绸之路》作为书的名称。为此、他受到瑞典皇家地理学会颁发的维多利亚奖章。就连那四名哥萨克、因为保护斯文赫定有功、一回到俄国、沙皇也给他们颁发了勋章。

シルクロードの放送が始まるだいぶ前ヘディンの中央アジア探検記を読んだ。手に汗を握るような記事の連続で寝る目も忘れて読んだ。張騫が使いして二千有余年、時代が移り少年の胸をかきたてた、はるか地の果ての西域の国々も夢ではなく此の足で踏みしめ、この目で見れるようになった。今張騫が現れて現在の様子を目にしたらどう思い、なんと言うだろうか。思えば感無量である。

註： Seiden； Silk      Straße； road

## 十・十一月の授業より

星期三班 額田幸也

上星期我没上课。我去医院做全面体检。以前医生说我的胆固醇（dàn gù chún コレステロール）比较高，叫我注意，所以我去医院做精密检查。每三年我做一次精密检查，就是一般所说的三小时精密检查，收费四万多日元。住院的话要十万元左右。各医院收费都不一样。

早发现疾病，早治疗。（病気の早期発見早期治療が必要）

我们“汉语学习会”上星期六参加了公民馆的庆祝。在会场里人们边歌边舞，气氛很活跃。

我们演出的节目就是唱中国歌“何日君再来”。我们每个班上课时都拼命地练习了，所以大家合唱得很好。观众们齐声鼓掌喝彩了。

如果没有各班老师的协助，不可能有如此令人满意的结果。

## 迷 语

星期二班 佐藤真智子

这个谜语你猜得着猜不着？

- |   |   |
|---|---|
| 1. 看不见，摸不着<br>天天吃，吃不饱，<br>人人离不开，<br>万物都需要。                      | 目に見えず、さわれない<br>毎日食べても、腹はふくれず<br>誰でもそれから離れられず<br>万物すべてに必要なもの |
| 2. 看不出，摸得出<br>等到摸不出，<br>大家流眼泪。                                  | 目には見えぬが触れればわかる<br>触れて無ければ<br>人みな嘆き悲しむもの                     |
| 3. 远看小星星<br>近看小灯笼<br>到底是什么<br>原来是只虫                             | 遠く見れば小さな星<br>近く見れば小さな提灯<br>一体何かと思ったら<br>実は一匹の虫でした           |
| 4. 小小玻璃房<br>四面有围墙<br>房间热乎乎<br>房外冰冰凉                             | 小さな小さなガラスの家<br>回りはぐるりと壁ばかり<br>お部屋はぼかぼか暖かく<br>外はひんやり冷たいよ     |
| 5. 一只箱，真奇怪<br>肮脏的进去<br>干净的出来<br>(答えはどこかのページの最下段にあります。探してみてください) | この箱はなんと不思議<br>汚れたものが入って行き<br>きれいなものが出てくるよ                   |



上海の鳥澤さんからお便りがありましたのでご紹介します。

同学们好！ 学习中文怎么样？

三人とも元気に9月1日から上海での生活を始めました。私達の住居の周囲は新村（団地）が多く新旧の公寓が林立しています。学校も多く小・中・大学がある文教地区でもあります。従って観光客の来るような地区ではなくベットタウンと申しましようか、一歩外に出ると生活の臭いがプンプンするような所です。

先輩からいろいろ教えてもらいながら、水に気を付け（飲料水は購入）、市場や店の蛙・蛇・鰻・鳥・豚を見ないようにしながら、食材を買っています。

今、中国は不況といわれていますが、10月1日の建国五十周年の祝賀に合わせるようにいろいろな施設が整備され、それをテレビが大々的に放映しています。また、それに合わせて建国の歴史を記録フィルム・当時の軍人の体験談・ドラマ仕立てにしたものなど放映しています。この時、必ず日本軍が悪者として登場するのでなんとも複雑な気持ちになります。

現在上海には二万人前後の日本人が居住しているようですが、私の考えていたより日本の存在感はうすいようです。德国人・法国人が多く日本人は三番目で、企業もそれに準じているのではないかと思います。なにより道路を行き来する車のほとんどは「サンタナ」「アウディ」で日本車はほんのたまに見るくらいですから。

日本の様子はテレビではあまり放映していません。首相の小淵さんがチラッと出てきた程度です。台湾の地震については「台湾省の地震」として放映されていました。

以上、簡単にこちらの様子をお伝えしました。ではまた、 再見

(1999年9月25日 鳥澤光代 記)

### 中国語の文章から

星期二班 佐藤真智子

漢詩が読めるようになりたくて中国語を習い出したのに、未だ読めない私です。ヒアリングの問題から面白いものを発見しましたのでご紹介します。

如果你遇到烦恼的事情，不要着急生气，不妨做一点儿让人高兴的事情，或者找朋友聊聊天儿。

もし君が思い悩むことに遭ったなら、焦ったり腹を立てたりせず、楽しくなることをしたり、友達と会っておしゃべりするのもいいことだ。

いやなことがあったら、誰でも同じことをするものですね。いやなことがなくても秋の良いひととき、お友達と聊聊天儿をしようではありませんか。



### 鎮 魂

木曜班 井上健三

師走に入ると8月の時と同じように、1940年代を辛うじてくぐり抜けた世代にとって、時代の潮流のままに漂っている自分を見直す季節になる。子供の頃聴いた古老の語る日露戦争の武勇伝は、その当時としてはせいぜい30年昔のことであった……三峽下りが終わって、武漢で読んだ「China Daily」には、見出しに大きく「Heat holds on; heavy weather to come」と、40度を越える酷暑を予報していた。八月に入って、中国の中部は炎熱の坩堝に投げ込まれる。9時過ぎ、既にむっとする駅前雑踏の中を岳陽まで360キロ、一行11人のトヨタ・マイクロバスが発車する。

窓側の席をAさんに譲り、前夜の夜行列車の疲れで寝込んでしまった。Aさんが起こしてくれたのは、昼過ぎ。街道沿いの給油所だった。蒲圻市の近くであったが、一面の青田はまるで緑の陽炎のように熱暑の中で揺らめいていた。赤レンガのスタンドの日陰では、竹の簀の子で幼児が昼寝をしている。家一軒見えない、昼下がりの街道。Aさんと一服していると、彼は禿上がった額の汗を拭きながら言った。「この辺りを五十年昔に歩いたんですよ。もっともこんな四車線の道ではないし、六月の雨期でしたけれどもね」呟くように言って、「道路周辺以外は昔と少しも変わっていない」と眼鏡の奥の目を瞬かせた。

岳陽までの二時間あまり、熱暑の下で息の根を止められたような湖南の農村を眺めながら、Aさんはぼつりぼつりと昭和19年（'44）初夏の体験を語った——以下は私がメモした聞き書きである。

1月、天皇の裁可により1号作戦が発令された。Aさんの師団は湘桂作戦に従事し、湘桂鉄道沿いに南下して衡陽、桂林を攻略し、アメリカ軍の飛行場を占領するというのが目的だった。（Aさんはため息をつくように言ったものだ——いや、よく歩いたものです。40キロの軍装ですよ。連日の睡眠不足で疲労困憊、一度腰を下ろしたら立ち上がるのが大変でした。靴も破れ始め、豆だらけの足を労わる暇もなく、落伍者が自殺することも少なくありませんでしたよ。6月ですよ、湘南の山野は雨また雨、洞庭湖のまわりは泥海なんです）既に制空権はなく、空襲があれば泥田に飛び込み、食事は夜明けか夜で、その上、Aさんの中隊全員がアメーバ赤痢に罹り、ひどい下痢に悩まされながらの戦闘だったという。（Aさんは果てしなく広がる水田を指して言う一糶株は現地調達でしてね、米軍機の来ぬ間に始めた稲穂を手でしごいて集めたものです）Aさんの親友が病没したのは岳陽に入る寸前だったという。Aさんはその後、暗号特技兵として、師団司令部へ転属となり、北ビルマでの壊滅やサイパン玉砕を知った……。

岳陽の賓館でのおそい昼食の後、岳陽楼下の船着場から君山に向かった。風も死んだ炎暑に包まれて、2、30分の距離にある細長い島影は靄の中に溶け込むように浮かんでいた。劉禹錫の詩にある「白銀盤里一青田螺」を味わうには、やはり秋に来るべきであったと思いつながら、人いきれのする船室から出て舳先に立ち、泥水の上にわき立つ航跡を眺めていた。人の気配を感じて振り向くと、Aさんがしゃがんでザックの口紐を解いていた。「どうしました？」と聞くと、「いや、なに」と言いながらAさんは二合瓶を取り出し、私と並んで黙って洞庭湖の水面を見つめていたが、やがて瓶の中の酒を湖に流し始めた。「ここを見る前に亡くなった友人と、この辺りで死んでいった沢山の戦友のためなんです」と、彼は酒瓶を高くさし上げた。酒は懐かしい祖国の香りを放ちながら、あたりに涼気を誘うように燦燦とながれ散って、湖水の飛沫と一緒に後ろに流れてゆく。Aさんは長い合掌の後、「ああ、これで積年の願いが果たせましたよ」と微笑した。

その夜、激しい雷雨があった。窓の外に閃光が走り、その一瞬のなかに君山の島影が幻のように浮かび上がり、それが次に黒い影となって鮮明に眼底に焼きつく。つづいて雷鳴が襲い、激しい雨が夜の底にたまりにたまった熱気を叩きのめすように奔り落ちてきた。翌日、再び、私たちは陽炎の揺らめくなか、逃げ水を追って長沙に向けて出発した。

( '99、12、6 記)



シルクロードに行く その1.

星期二班 佐藤みどり

憧れのシルクロードを訪れたのは3年前の夏。北京からまず西安へ。西安は古都の名に相応しい美しい街で、趣きのある裏通り、立派な城壁、城門等見所が多い割に静かな街だった。夜、あちこちの広場で、老若男女が音楽に合わせてダンスを楽しんでいるのが実に微笑ましかった。翌日敦煌へ。莫高窟は圧巻。でも美しいオアシスの陽関、塩の浮いたゴビ砂漠の中、道なき道をジープでひた走って行く玉門関、ほとんど土に帰した漢代の長城は唯々感動。夕方は鳴砂山へ。果てしなく続く砂山に登り、地平線に沈む夕日と赤く染まる砂山を見た。ふと気が付くと東の地平から満月。余りの美しさに3晩通いつめた。敦煌を後に嘉峪関。万里の長城が砂漠の中にその姿を消すという長城最西端の地。きれいな絵葉書があったので、ホテルで場所を聞いたらフロントの青年が一緒に行ってくれた。英語の上手な人で夕日の嘉峪関が美しく見える場所をいくつか案内してくれた。ここも2晩通った。翌日は列車で18時間。吐魯番へ。軟臥の切符を取る為に日本の旅行社に手配を頼み、ガイドも何日か付けた。さて列車を待つこと9時間。ガイドは列車の遅れも知らず、切符も取っていなかった。冗談ではない。何の為に高い料金を払って手配を頼んだのか。ガイドは車掌と暫く交渉し、次の駅で軟臥が空くので中で切符を買うように告げ、私達を無理矢理列車に乗せた。車掌は硬臥の切符をくれた。筆談でガイドの話しを伝えると“没有”。これが最初に憶えた中国語。腰痛持ちの主人が18時間の列車の旅を硬臥で乗り切れるか不安だったが硬座よりまし。さて切符の示す車輻に辿り着くと、自分達の席には学生風の女性がいた。切符を見せると車掌の所に行けという風に指さした。車掌は切符を受け取り、かわりに赤い席札をくれた。ああ、こうやって列車に乗るのかと納得し、その席にいくとそれでも案の定人がいた。札を見せても取り合わない。すると先程の女性が来て散々交渉し、私達の席を確保してくれた。感謝感激である。中国の学生は英語の話せる人が多いと聞いたので試しに英語で声をかけたみたらきれいな英語が返って来た。上海の学生でウルムチの家に帰省する所だった。彼女は列車から降りる時に必ず赤札を渡し切符をもらうよう注意してくれた。かくして翌日昼過ぎに吐魯番。誠実そうなウイグル人のガイドが駅で迎えてくれた。列車が遅れたのは一週間前の雨で付近一帯の道が寸断されたからで2日前にやっと一部開通したとのこと。それにしても嘉峪関のガイドはどうしてそんなことも知らなかったのだろうか。吐魯番の2日間は夢の様に過ぎた。砂漠に残された古い王都の廃墟や千仏洞。車のボンネットで目玉焼ができるという程強い日射し。笑顔の美しい人々と優しいもてなし。行く先々で出されるすいかは暑く乾いたこの地ではなによりの御馳走。パズールで買ったぶどうもおいしくて死ぬ程食べた。もっとも去年行った時には五十周年記念の為町中を改造していてかつてのおもかげはなかった。

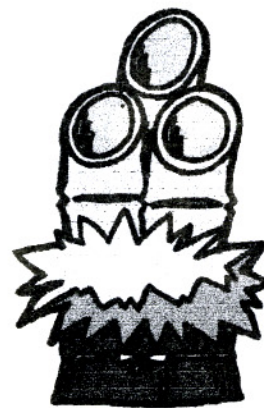
次は烏魯木済、ウルムチへの道は一週間前の豪雨で寸断。川岸のかつて美しかった畑は泥沼、トラクターが泥の中に半分沈んでいた。道は12時間交替の片側通行。時間にゲートを通り損ねると12時間待ち。悪路に行くこと5時間、反対側のゲートには何十台も車が並んでいた。ウルムチは人口300万の大都会。訪れた天池は美しい所だけれど

人ばかり。そして北京へ。3泊し、夜な夜なホテル近くの餐厅で菜單と格闘。おいしいものをたらふく食べて2人で百元位。でも隣のテーブルにはもっとおいしそうなのがたくさんあった。さて中国でおいしいものを食べることはなるべく混んでいる人気のある餐厅に行き、人の注文した料理のうち好きなものを指させばいいというけれど、次回は自力で好きな物を注文できるようになりたいと思いつつ終えた中国旅行であった。

下の詩の作者「曹植」は曹操の息子で頭がよく父親に気に入られていた。そんな曹植をこころよく思わなかった兄の曹丕に「7歩歩む間に詩を一つ作れ。出来なければ殺すぞ」と言われて作ったのがこの詩だと言われている。この詩を読んだ兄の曹丕は号泣し、曹植を殺すことはなかったそうだ。

qī bù shī	cáo zhí	
七 步 诗	曹 植	中 译 文
zhǔ dòu rán dòu qí		豆 秆 儿 在 灶 下 旺 旺 地 烧 起,
dòu zài fǔ zhōng qì		豆 子 儿 在 锅 里 哀 哀 地 哭 泣:
běn shì tóng gēn shēng		“ 秆 哥 哥 哟!
xiāng jiān hé tài jí		你 我 原 是 一 条 根 儿 上 生 长 的 兄 弟
		你 为 什 么 逼 迫 熬 煎, 又 凶 又 急?”

日本語に訳してみるとこんなふうになるのではないのでしょうか。豆の殻がかまどで勢いよく燃え出した。釜の中では、豆が悲しそうに泣いている。「豆殻お兄さん！ お兄さんと私は同じ根の上に育った兄弟なのに、どうしてそんなに激しく燃えて、私をいじめるのですか」



二千年問題も無事にクリアーして、めでたいお正月を迎えることが出来たことと思います。(これを書いているのは旧年なので結果は不明?) 多数の原稿をいただき、お陰様で「にいはお」新年号をお届けすることができました。次回は4月に発行の予定なのでもっとたくさんの寄稿を期待しております。どんな内容でも結構ですから気楽に書いてください。特に中国に関係無いことでもかまいません。日ごろ感じたことなどを活字にして意見の交換や発表の場として利用してください。次の原稿締め切りは3月中旬です。

謎語の答え：1 空気 2 体温 3 蛍 4 暖水瓶 5 洗衣机



## 第18回公民館フェスティバルに参加して

星期二班 川端 英一

毎年、芸能発表会に参加している「中国語を学ぶ会」は、異色のコーラスグループとして注目されており、今年も出演した。

11月27日は、土曜日のため、仕事の関係で参加できない人も多かったが、それでも男女7名ずつの計14名が出演した。

参加者は、火曜日クラス：佐藤さん・加藤かおりさん・佐藤みどりさん・久保田さん・兼田さん・鈴木さん・池田さん・稲村さん・後藤さん・川端、水曜日クラス：猪野さん・今村さん・石川さん・額田さん等であった。

午後3時台の中央公民館ホールは、昨年の日曜日朝10時台に出演した時とは異なり、ほぼ満席で熱気がみなぎっていた。

劉雪厂作曲「何日君再来」は、ポピュラーのせいか中高年の観客の方々も、私たちと合わせてハミングしているのが見えた。短いコーラスの途中で、何度も何度も拍手を頂き、一同感激した。今年初めて出演された方も、短い時間の出演でも充実感を味わわれたのではないかと思った。

土曜、日曜日の2日間で、華やかな舞台衣装に身を包んだ155チームの発表があった中、コーラスはわずか3チームしかなく、語学勉強サークルの新鮮味が、大変受けたものと思った。

林老师・田老师には、歌詞の内容と発音を教えて頂き、終始暖かいご支援を賜った事、あつく感謝申し上げます。

又、オリジナルテープを貸して下さった東川さん・コーラス用テープを作って下さった秦さん・遠方から来場され写真撮影を引き受けて下さった加藤かおりさんのご主人様・芸能祭参加申し込みに奔走して下さいました神山会長に御礼申し上げます。

出演して下さった皆様、お疲れさまでした！

